

令和6年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「小中一貫教育のよさについて」令和6年7月22日（月）14:00～15:30

座長より 小中一貫教育懇談会の目的について

①小中一貫教育懇談会の目的

熊本市における小中一貫教育及び幼小中連携教育のあり方、推進方法等について意見交換し、特色ある教育の推進を図るとともに、その成果を活用することにより熊本市全体の教育の質の向上を図る。

②小中一貫教育懇談会の今年度の目標

みんなが小中一貫教育のよさを実感できる学校にするためにはどうすればよいか

③連携を充実させるための2つの方法

◇連携して取り組む対象づくり（小中一貫教育目標、小中一貫カリキュラム等）

◇連携者同士の関係性づくり（教職員同士と子ども同士が交流する）

④小中一貫教育懇談会の今年度の計画

第1回：小中一貫教育のよさについて

第2回：みんながよさを実感できるには

第3回：来年度取り組みたいこと

事務局説明 本市の小中一貫教育の取組について

①小中連携教育と小中一貫教育について

「小中連携教育」とは、小学校から中学校への円滑な接続を目指す様々な教育のこと。

「小中一貫教育」とは、小中連携教育の中に含まれ、小中学校の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた系統的な取組を目指す教育のこと。

②幼小中連携教育と小中一貫教育の目的

中学校区の課題を解決する

小学校や中学校入学に対する不安感を軽減
義務教育9年間で児童生徒を育てる意識の醸成
児童生徒の不登校やいじめの解消など

③幼小中連携教育と小中一貫教育のメリット

- (1) いわゆる「中1ギャップ」の緩和・小学生の中学校進学に対する不安感の軽減
- (2) 教育課程の編成・実施による指導の一貫性の確保
- (3) 小中学校間の教職員の意識改革
- (4) 学力向上・学習意欲の向上
- (5) 良好な人間関係の構築・不登校児童生徒の減少
- (6) 小規模校の弊害の解消 など

④今後の小中一貫校への移行について

◇令和6年度から花陵・城西・飽田・力合・日吉中学校区は小中一貫校。

◇今年度のモデル校（三和・武蔵・長嶺・龍田中学校区）は1年間の取組後、小中一貫校に移行予定。

意見交換のまとめ ～ 各校区の取組や小中一貫教育のよさについて ～

○江南中校区では、幼小中の合同遠足を6年ぶりに実施した。幼稚園の先生から中学生の表情が柔らかくなったという話を頂いた。乗り入れ授業にも取り組んでおり、小学校の業間の時間を使って、小中の授業開始時間を合わせる工夫をしている。小中間で互いの校内研修に参加する取組もしている。教員間の繋がりがないと小中一貫教育はできない。

○小中間や小学校間で合同行事をすることで、保護者や地域の方には少しずつ小中一貫教育の取組が伝わっていくのではないかと。

○小中一貫教育のよさは、各学校の課題の共通点を見つけ、課題に対して共通実践できること。

○天明校区では、月に1回校長会と小中学校合同会議を行っている。乗り入れ授業により、中学校の入学式で「〇〇先生がいたよ。」という会話が飛び交っていた。新入生の安心感が生まれる。

○園や学校、保護者と情報交換や打ち合わせを行い、こどもが安心して登校できる環境を作ることができるのが幼小中連携教育のよさである。

○鹿南中校区では、小学校への乗り入れ授業において、小学校の先生がT1、中学校の先生がT2という形にすることで、中学校の先生の負担が増えないようにした。

○二岡中校区では、グループアプローチを小中で共通実践している。こどもたちがお互いを知り合うことで落ち着いた学校生活につながっている。8年間の継続的な取組の成果が出ている。